

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に基づいた教育課程を策定し、カリキュラム・マネジメントに取り組む。 組織的、体系的な授業改善をとおして生徒の学びに向かう力や探究心を高める。 学校行事や生徒会活動等を通じて、生徒の主体性・リーダーシップを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領の適切な運用に向け、カリキュラム・マネジメントに取り組む。 ②主体的・対話的で深い学びを実現し、効果的にICTを活用して、組織的な授業改善に取り組む。 ③学校行事や生徒会活動等の特別活動により、生徒の主体性とリーダーシップの伸長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①選択科目等の指導を適切に行い、新学習指導要領に基づく教育課程の確実な実施を図る。 ②探究的な学習や日常の社会との関連を重視した学習を充実させるとともに、1人1台端末の授業での活用を推進する。 ③特別活動において、生徒自らが考え工夫するなど能動的、積極的に活動できるように導き、実践的な態度と主体性を伸長させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①個々の生徒の進路希望の実現に向けた選択科目の指導や、開講科目の適切な配置ができたか。 ②組織的な授業改善の取組として、効果的なICT利活用を実践できたか。また、社会に開かれた教育活動の実践ができたか。 ③特別活動において多くの生徒が自主的に活動し、主体性とリーダーシップを発揮することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①科目選択の資料を見直すと共に、LHRや総合的な探究の時間、自由選択の時間割配置等、適切な運用に向けた検討を行った。 ②組織的な授業改善を通して、全ての科目でGoogleClassroom等を活用するなど、効果的なICTの利活用を実践することができた。 ③コロナ禍による中止、制約が3年続いた中、生徒の経験不足と導く教員側の準備不足のため、全体の活動としては及第点であったが、十分な力を発揮できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領の趣旨を生かした、具体的な運用方法を検討する必要がある。 ②引き続き効果的なICT利活用の実践に取り組むとともに、より授業改善を進めることのできる仕組みをつくる。 ③それぞれの特別活動の在り方を再確認し、検討を一から行い、十分な時間をかけて、見直しをしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①来年度で全学年が新学習指導要領に基づいた新教育課程となる。実施してみても検証と改善点の検討が必要である。 ②ICTの利活用に関して依存するのではなく、対面での対応の大切さも再認識していただきたい。 ③コロナ禍の体験は他に類をみない貴重な体験であったのでそれを今後活かしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①来年度で全学年において新教育課程が完成する。個々の生徒の進路実現に結びついているか否か等の分析を進め、改善の方策を検討していく必要がある。 ②組織的な授業改善を通して、職員全体へのICTの利活用についての意識を高めることができた。ICTの利活用だけにとらわれないより効果的な授業改善が求められる。 ③多くの特別活動を実施し、生徒の活動場を増やすことができた。従来の在り方を踏襲するだけでなく、現状に合った活動の在り方の検討を続けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員全体からの意見の集約等を通し、新教育課程の本校における改善の方策について検討していく。 ②より効果的なICTの利活用方法や、さらなる授業改善に向けての検討や研修を充実させる。本校が育成したい資質・能力の向上を実現する授業改善に取り組んでいく。 ③生徒が主体的に活動できる場をより増やすことができるような活動の在り方の検討を続けていく。
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒との確かな信頼関係に基づいた生徒理解に努め、基本的な生活習慣の確立、社会性を育成する。 生徒一人ひとりの実態や特性に応じたきめ細かい支援の一層の充実を図る。 部活動を含め、生徒が自主的・主体的に活動できる教育環境の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全職員の共通認識のもと、きめ細かく粘り強い生活指導を通じて、基本的な生活習慣の確立を図る。 ②個々の生徒の課題を共有し、課題解決に向けて支援を行う。 ③部活動や地域との交流の充実を図り、主体性、社会性、豊かな人間性を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣の確立に向け、生徒一人ひとりの状況を把握した上での指導に取り組む。 ②課題を抱えた生徒について情報共有を的確に行い、SCやSSWと連携した支援を行う。 ③部活動への加入率を高め、学校全体の活動の活性化、豊かな人間性を育む環境づくりを推進しボランティア活動や地域貢献への意識を持たせ、社会性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校全体で共通認識のもと、基本的な生活習慣改善に向けた指導が実施できたか。 ②生徒の状況に合わせ、適切な対応ができ、外部機関とも連携できたか。 ③80%以上の部活動加入率を達成できたか。また、地域との交流において生徒個々の意識に変化が見られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学年を中心に遅刻指導などの基本的な生活習慣の確率に向けた指導を実施した。 ②課題を抱えた生徒への情報収集やSC・SSWと連携した支援を行うよう努めた。 ③入学当初の部活動加入率は8割強であるが、途中退部率が例年より高かった。地域に貢献できる学校を意識させることを様々な場面で行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①複数回の指導を行ったが、改善につながらないケースもあった。 ②生徒の状況に合わせ、情報を共有し対応できたが、外部機関との連携については、時間がかかるケースが多かった。 ③コロナ禍で部活動が制限されていたが、平常に戻り、活動日が多くなることで、ついていけない生徒が多かった。これからの部活動の在り方と活動方法・内容を再考し、整理する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①時間を守ることなどの基本的なマナーは社会に出ると信用につながる部分なので、指導は継続して欲しい。 ②情報を共有化し、生徒と根気よくコミュニケーションをとり、指導支援をお願いしたい。体験活動の充実などに引き続き取り組み、人と人とのつながりを育んでいただきたい。 ③部活動を見学した際、とても活発にみえた。それ以外にも、長く続けられるような活動の工夫をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣の確立に向け、学年を中心に指導を行った。継続して指導を行っていく必要がある。 ②SC・SSWと生徒が面談できる時間が増え、より多くの課題を抱えた生徒への対応ができた。外部機関も含めた連携の強化が求められる。 ③入学当初の80%以上の部活動加入率を達成できた。生徒が意欲的に部活動に取り組めるような工夫が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①指導方針等の共通理解を図りながら、基本的な生活習慣の確立に向けた指導を継続していく。 ②さらに生徒理解と情報共有を進め支援体制を強化していく。SC・SSW・その他外部機関との連携の方法について検討を続けていく。 ③部活動運営方法や活動計画の見直し等を進め、生徒が意欲的に部活動に取り組める仕組みを検討していく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの社会的自立に向けキャリア発達を促進させる。 将来に見通しを持たせ、生徒が希望進路の実現に向けた進路指導・支援の充実を図る。 	<p>①ポートフォリオを充実させ、生徒一人ひとりの社会的自立に向け、キャリア諸能力の形成を図る。</p> <p>②キャリア教育の視点から、生徒の進路希望の実現に向け、系統的な進路指導・支援の充実を図る。</p>	<p>①ポートフォリオに関わる活動を通して、生徒一人ひとりが自己理解を深め、成長を実感できるよう組織的な支援に取り組む。</p> <p>②3年間を見通した組織的な進路支援・指導体制を構築する。また、年間計画に基づいた各種模擬試験や英語の資格・検定試験への事前指導や振り返り等を通じ、生徒が希望する進路の実現に向けた、きめ細かい支援の充実を図る。</p>	<p>①校種間で引き継いできたキャリア・パスポートを基に、高校入学後に作成するポートフォリオに関わる活動に主体的に取り組めたか。</p> <p>②大学入試制度等について、適切に情報提供を行い、希望進路実現に向けて、生徒個々の目標設定の振り返りや学習計画の見直しを通じて、生徒に自己肯定感ができたか。</p>	<p>①行事や模試実施後の振り返りの時間を通して、客観的に自分の行動を見つめ直し、改善すべき点等について考える機会を設けた。</p> <p>②各学年とも模擬試験や英語の資格・検定試験を年間計画に沿って実施することができ、生徒の意欲的な取り組みも見られた。進路支援体制については、生徒一人ひとりの希望する進路の実現に向けて支援を行った。</p>	<p>①蓄積してきたキャリア・パスポートは、この先の進路について考える資料の一部にもなることから、継続して実施できるよう努める。</p> <p>②高校での3年間を見通し、生徒の希望する進路実現に向けて、模試等のデータを分析・活用し、生徒が主体的に継続して学習に取り組めるよう組織的に指導、支援を行う。</p>	<p>①生徒個人の希望を十分に汲み取り、将来の進路についての指導をして欲しい。</p> <p>②英語の資格・検定試験を計画に沿って実施できたのはよかった。生徒たちの学習意欲を引き出すために色々な方策をこれからも考えていきたい。</p>	<p>①各行事や模試の振り返り等を通してポートフォリオの蓄積を実施することができた。その蓄積を進路に活かすことのできる指導の必要がある。</p> <p>②模擬試験や英語の資格・検定試験を年間計画に沿って実施することができた。生徒一人ひとりの希望する進路実現に向けたより効果的な進路指導・支援体制の構築が求められる。</p>	<p>①引き続きポートフォリオの蓄積を実施し、生徒の活動の振り返りの機会を設ける。それを進路に活かすことのできる仕組みを検討していく。</p> <p>②大学入学共通テストや一般選抜等も含め、引き続き情報収集に努め、職員の共通理解を図り、組織的な支援を継続する。また、上級学校が入学者に求める資質・能力の向上に向けての指導・支援体制を構築していく。</p>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールの仕組みを通じて、地域、同窓会等の外部の教育資源を有効に活用する。 外部への情報発信を積極的に展開し、開かれた学校づくりを進める。 	<p>①学校運営協議会と連携して、地域、同窓会、保護者と協働した取組を進めていく。</p> <p>②学校説明会やホームページの内容の充実を図り、本校の教育活動を広く発信する。</p>	<p>①学校運営協議会と連携し、地域に貢献する活動を企画し実施する。</p> <p>②本校の教育活動を発信できる場面や資料の充実を図る。</p>	<p>①学校運営協議会での協議を活かし、地域との関わりを持ち、能動的な貢献活動ができたか。</p> <p>②学校見学・説明会の参加人数が増加したか。ホームページや資料の内容の充実を図ることができたか。</p>	<p>①生徒との交流等を通じ、学校運営協議会との連携をより深め協議を活かすことができた。</p> <p>②本校を紹介する場面で資料の工夫やホームページの充実を図ることができた。</p>	<p>①生徒の実際の活動との関わりを増やし、さらに学校運営協議会との連携を深めることで、地域との関わりを深めていく。</p> <p>②本校の魅力を十分に理解していただけたか否かの検証を行う。</p>	<p>①地域と一体となって生徒を育てて欲しい。スクールカウンセラーの必要が増えているとのことであったが、地域の諸機関との連携も考えてよいかもしれない。</p> <p>②鶴見高校の自由な校風を内外により示していくことがよいのではないか。</p>	<p>①学校運営協議会では、生徒の実際の活動との関わりを増やすことができた。その他地域の諸機関等との連携を深めることも求められる。</p> <p>②学校行事や部活動においてホームページや本校を紹介する資料の更新をおこなない、充実を図ることができた。</p>	<p>①学校運営協議会においては、今後も生徒の実際の活動との関わりを持つ機会を増やしていく。またその他地域の諸機関と連携できる体制を構築していく。</p> <p>②引き続きホームページの更新を各行事終了後1週間以内におこなうなど、本校の魅力の紹介を図る。</p>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> すべての職員が学校教育目標を目指し、効率的、効果的な教育活動に取り組み、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。 職員の働き方改革を推進するとともに、事故・不祥事の未然防止に努め、県民から信頼される学校づくりに努める。 	<p>①スクール・ポリシーのもと、全職員が学校教育目標の達成に向けて教育活動を推進する。</p> <p>②職員一人ひとりが事故・不祥事防止に向けて、当事者意識をもって取り組む。</p> <p>③職場の風通しをよくし、長時間労働を抑制して、職員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①スクール・ポリシーの内容を全職員が熟知するとともに、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。</p> <p>②事故・不祥事防止研修及び不祥事防止会議を開催し、事故を起こさない環境を構築する。</p> <p>③業務の効率化、職場のペーパーレス化を進める。</p>	<p>①様々な機会を通じて、スクール・ポリシーを周知できたか。</p> <p>②事故・不祥事防止研修及び不祥事防止会議を何回実施したか。不祥事ゼロを達成できたか。</p> <p>③Teamsへの移行に伴う、業務の効率化を達成できたか。</p>	<p>①スクール・ポリシーをホームページや学校要覧に掲載した。</p> <p>②不祥事防止研修を12回実施したが成績処理について事故が発生してしまった。</p> <p>③Teamsのチャット機能の活用や職員会議のペーパーレス化の実施等、業務の効率化を進めることができた。</p>	<p>①様々な機会を通じ学校教育目標を更にアピールしていくと共に、全職員がスクールポリシーを共有する。</p> <p>②今後も事故・不祥事の再発防止に向けた点検体制の強化を行う。</p> <p>③全職員へのアンケート等を通して、引き続き業務の効率化を進めていく。</p>	<p>①全職員がスクール・ポリシーに対する理解を深め、教育活動をおこなっていくこと。</p> <p>②不祥事防止研修は続けていくことで考え方が変わっていくので継続して欲しい。</p> <p>③会議資料のペーパーレス化はよい取り組みだと思う。しかし、場面によっては紙や直接話すなど状況を見極めながら進めるとよい。</p>	<p>①スクール・ポリシーの周知を可能な限り実施することができた。</p> <p>②研修会は定期的で開催することができたが、成績処理について事故が発生してしまっは年度内に事故防止について検討し、再発を防ぐことができた。その他事故防止についても引き続き継続していく必要がある。</p> <p>③全職員へのアンケート等を通じ業務の効率化、職場環境の改善を進めることができた。</p>	<p>①スクール・ポリシーの内容を全職員が熟知するとともに、社会に開かれた教育活動の実現を目指していく。</p> <p>②様々な事例に対しての研修会や職場討議を実施し、事故・不祥事を起こさない環境を構築していく。</p> <p>③引き続き相談しやすく風通しのよい職場を目指し、業務の効率化・職場環境の改善についても進めていく。</p>